

第2B(小)分科会 子どもの発達に関する課題

提案主題 特性を持つ子どもの問題行動に対する支援体制はどうあればよいか

サブテーマ ～校内体制の構築や関係機関との連携のための教頭のあり方～

協議の柱 特性を持つ子どもの問題行動に対する支援を行うための体制づくりに、教頭としてどのようにかかわっていけばよいか。

提言者 大分市立下郡小学校 平塚智啓

1 質 疑

- (1) Q ①SC、SSWの来校はどの程度か。②補助教員のA児に対する支援はあったのか。
A ①SCは月2回、SSWは週1回②他児童対応をしており直接的な関わりはなかった。
- (2) Q 関係機関との連携でA児、学校にとって良かった点は何か。
A 経済状況等学校では把握しにくい情報収集ができ、A児の背景理解につながった。

2 協 議

- (1) 校内体制の構築
人員確保、校内・関係機関の情報共有の場の設定等、体制見直しは常に必要である。「組織的な対応」のため、教頭や特別支援教育コーディネーターを中心に、週毎に支援体制を確認し、教職員で情報共有するなど、個に応じた体制運用の視点が重要である。
- (2) 関係機関との連携
教頭が中心だが、主幹教諭や教務主任等との連携も必要である。拡大ケース会議などでは情報共有だけでなく「いつ」「誰が」「どの時期に」「何をするか」等具体的に決めて支援を行う必要がある。また、幼保小中の情報共有も今後ますます重要になる。
- (3) 教頭の役割
校内体制の積極的な活用とPDCAサイクルによる効果的な支援体制の維持改善、情報収集・関係機関との連携・情報共有の場づくり等の連絡調整

3 指導助言

- (1) 特別支援教育コーディネーター、校内委員会などの機能の活性化
コーディネーター配置は経験や専門性等配慮が必要である。校内委員会では担任、関係職員等に児童観察・情報収集、生徒指導主任等と連携した「個別の指導計画」作成等指示し、支援策を明確にする。継続的支援にはPDCAサイクルによる組織力向上が重要である。
- (2) 担任への支援
担任を孤立させないために「いつ」「どんな事を」支援するのか、校内委員会等で対応策の具体化と共通理解を行い、「チーム支援」の方針を明確にする。
- (3) 関係機関との連携
個に応じた柔軟な対応ができる支援体制づくりが管理職の大きな役割である。関係機関と、子どもの実態や変容を含めた情報交換を密にしていくことが、成果につながる。